

乳幼児を見守り80年

タウン記者がたどる

継承ストーリー

つなぐものがたり



■27

JR中浦和駅から徒歩10分、住宅地に囲まれた林で子どもたちの元気な声が響く。真言宗智山派医王寺に隣接する上宮山、通称「どんぐり山」は浦和ひなどり保育園の園児たちが自然の中で遊べる約2100平方

分のビオトープ。敷地内の小高い丘からは新幹線や埼京線が走る姿も見える。時はさかのぼり1938(昭和13)年、農繁期にお寺で地域の子どもを預かる、さいたま市内では初の「土合村西堀託児所」が開園した。当時は米を持ち寄り炊き出しをして、本堂や山で共同生活をしてきた。54(同29)年に「浦和ひなどりの保育園」として県の認

可を受け、のちに社会福祉法人となった。その頃はまだ戦後の貧しい時代で、前年暮れの新聞に「イスだけの保育所開園」と掲載され、これを見た医学博士で近隣の別所在住た



1938(昭和13)年ころ、農繁期に子どもを預かったのが今の保育園の原点となった

浦和ひなどり保育園 (桜区)

つた永堀善作氏から「オルガン一つないのでは子どもたちがかわいそうだ」とオルガンが寄付された。創設者は千葉県南房総の農家の次男で、明治生まれ

の丸山豊純さん(享年101歳)。11歳で出家し、昭和に入り、結婚後、現在地の医王寺の住職に就任した。当時、この辺りはまだ片田舎で、医王寺は荒廃し



どんぐり山で竹登りやロープにぶら下がってターザン遊びなどをする子どもたち

た無人寺だったため、寺門興隆と地域の人の役に立ちたいという豊純さんの思いから保育所開園が実現した。

その後、時代は流れ、豊純さんの次男俊彦さん(84

からバトンを受け、現在3代目園長を務めるのは孫の丸山和彦さん(44)。「自立と自律」「共生と貢献」などといった理念を基に、豊かな子育てとコミュニケーションの在り方を子どもや職員、保護者、地域の人々と共に模索している。

「子どもが子ども時代を子どもらしく過ごすという当たり前で大切なことが困難になりつつある」と指摘する和彦さん。自身も卒園児の一人で、27歳の若さで園の経営を引き継いだ。

「五感を通し、この時期を満喫する中で、人としての発達の基礎を固めていく。地域の関係が希薄な現代では、自然体験や異年齢の子ども集団での活動、主体性を持つて参画する活動ができる場は貴重」と、子

ども時代を振り返りながら話す。誰もが居心地の良い場を求めて、園舎を増築したり、どんぐり山を開設したりと豊かな環境作りに乗り出している。

「コロナ禍の中、どんぐり山での外遊びは子ども们的ストレス発散となり助かっている」と、保護者らは話す。現在、150人の乳幼児を預かり、市内の民間保育園としては最も定員が多い。地域の子育て支援の先駆けとして、かつての職員から近隣の園長も多数輩出。現職員の中にも卒園児が3人いる。激動の時代の中、これからも地域に根を張った保育園を目指している。

(タウン記者・俵操子) 【XET】さいたま市桜区西堀2の6の26。☎048・861・8311。入所対象児は生後43日から就学前まで。関連施設は与野ひなどり保育園(中央区)、菁莪(せいが)保育園(桜区)、ひなどり幼稚園(桜区)。

さいたま市



さいたま市

本社 さいたま市北区吉野町2-1282-13
編集局 TEL 048-1795-1916
FAX 048-1665-19040

☐ dokusya@saitama-np.co.jp

広告のご用命 TEL 048-1795-19932